

igoods

アイグッツ株式会社



品質管理ポリシー

Quality Management



igoods

アイグッツ株式会社

アイグッツが生産するアイテムは一概に高品質ではない。  
1点10万円で販売されているようなブランド品と  
比べると当然ながら品質は良くない。

ただ、【品質とはお客様が期待している程度を  
満たしている度合いのこと】である。

だからこそ、1人1人のお客様、1つ1つのブランド、  
1つ1つのアイテムと真摯に向き合い対応することで  
お客様が求める品質を満たしていくことが大切だと考える。  
そのため、アイグッツが下記3点に関して品質管理ポリシーを用いて実現する。

#### 仕組み

品質に対して、お客様に常に安心してもらえるよう、  
第三者機関、中国QCスタッフとも連携し、  
生産工程により着目した「仕組み」

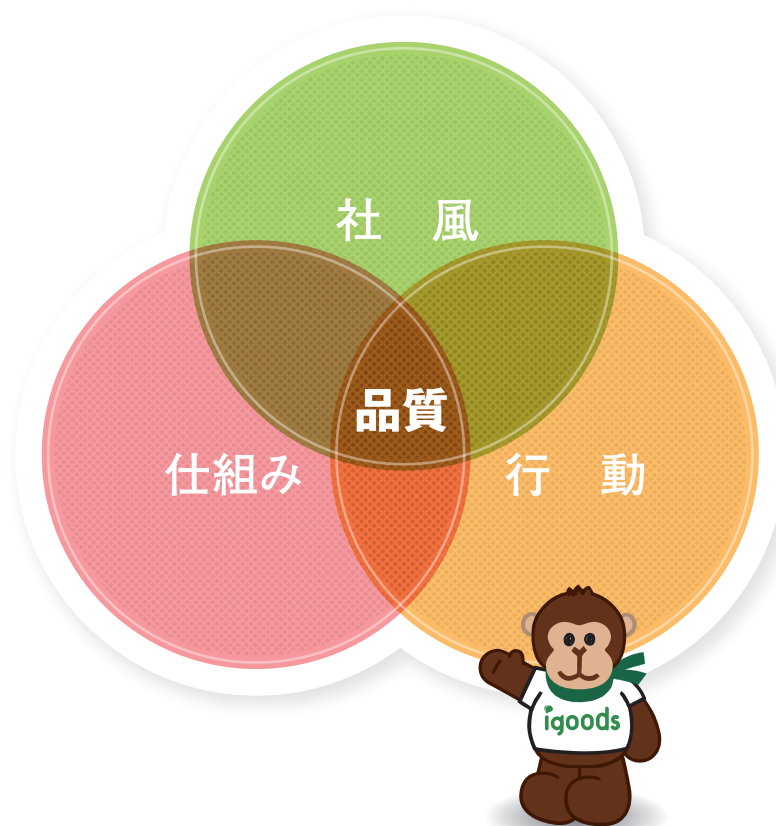
#### 社風

社員全員が品質に対して共通した意識を持ち、  
お客様が求める品質に目を背けることなく、  
常に向き合い続ける「社風」

#### 行動

品質トラブルをなくすことを目指した  
事前対策（予防治療）を徹底した「行動」

「仕組み」「社風」「行動」の全てが重要であり、  
どれか1つでも欠けることなく、この三要素を掛け合わせることで  
1人1人のお客様の求める品質に、真摯に向き合うことができる。



# 品質管理における5つの仕組み

## 1 ワンストップ体制の構築

中国生産工場とお客様の間に中間流通を経由せず【企画・生産・品質管理・貿易・納品】の全てを弊社で一括管理する体制を活かして、お客様の要望に細かく柔軟に対応していく。

## 2 業界規格に合わせた安全基準検査に対応

堅牢度試験、有害物質の含有試験、食品衛生法検査、耐荷重試験、ST基準・RoHS指令・グリーン調達に準じた試験など第三者機関の各種安全基準検査を通して安心・安全にグッズを提供する。

## 3 中国・国内における充実した第三者検品体制の構築

受託した中国生産グッズに関しては第三者の検品専門工場で全数検品を行うことを基本ルールとし、全ての縫製品に関しては異物混入検査(検針・X線検査)を義務化する。また品質重視のお客様のために東京都足立区のアイグッズ検品センターや抜き取り検品所を活用し、お客様が期待する品質と実際のグッズの品質に乖離が無いように努める。

## 4 品質重視の工場とのみ提携

弊社の協力工場監査基準を満たしている、且つ日本向け実績が豊富にある工場を選定し、品質重視の工場とのみ提携している。また、安易に提携工場は増やさず、新しい工場と提携する場合、「FAMA(DISNEY)」と「Sedex」の認定を基準とする。

## 5 弊社QCスタッフによる生産管理

QC現地スタッフが連携し、お客様に直接関わる日本側と生産工場に直接立ち会える中国側の双方で状況を共有しながら品質管理を徹底する。



# 品質管理における4つの社風

## 1 グッズのプロとして常に学び続ける社風

生地・印刷勉強会の定期開催やトラブルレポートの社内共有を通じて、知識不足によるトラブルを無くすよう社員全員が日々学び続ける。

## 2 リスクを事前に把握し、事前対策に努める社風

仕様書、サンプル出来上がり時など各段階に応じてQCスタッフ、デザイナー、グッズディレクターがアイテムの生産リスクの打ち合わせを行い、量産時に問題が起きないように事前の対策に努める。



## 3 品質への追求に責任を持って取り組む社風

お客様と定めた検品基準に対して真摯に向き合い、お客様が求める品質基準を満たすようQCスタッフ、デザイナー、グッズディレクター、中国工場、アイグッズ検品センターと協力して最後まで責任を持って取り組む。

## 4 安心・安全を届けることを優先して取り組む社風

お客様のブランドを守り長期的にサポートさせていただくために、目先の売上よりも安心・安全を届けることを優先し、品質の保証ができないアイテムはお客様から依頼されても受託しない。



# 品質管理ポリシー 10の行動指針

- 1 仕様について上司、工場に確認がとれたことだけをお客様に伝える。不確定なことは言わない(オーバーコミットしない)。
- 2 アイテムの仕様が確定でき次第、上司・デザイナーと生産リスクを打ち合わせする。
- 3 仕様書はデザイナー・グッズディレクター(案件により上司)のダブルチェックを行う。
- 4 校正サンプルは必ず量産前に提出する。
- 5 サンプルが届いたら、デザイナー・グッズディレクター(案件により上司)で仕様書と見比べて打ち合わせを行い、仕様の確認、および生産リスクになりうるポイントを再度確認した上でお客様に提出する。
- 6 前例に無い仕様のグッズを生産する際は必ず自分で使用し、不具合がないかを確認める。
- 7 別注で部材を生産する場合は製品の量産前に各部材を取り寄せて、校了品との違いがないか確認する。
- 8 量産抜き取りサンプルは必ず上司と相談の上、必要数を取り寄せ、上司・デザイナーと共に確認する。
- 9 案件に応じて中国工場への初動生産や検品立会いを実施する。
- 10 検品基準書は量産抜き取りサンプルを基準に、画像などを用いて誰が見てもわかるように作成する。



# 生産管理について

生産スケジュールを把握した上で、アイテムに合わせた生産管理をすることを徹底する。

## 校正

**Check!** 校正サンプルの品質や仕様書をもとに社内（上司・デザイナー）やお客様と打ち合わせをし、工場への生産注意点を伝える。

## 注文

**Check!** 量産生地在庫日、量産開始日、初動量産UP日、検品・梱包開始日を必ず確認し、そのスケジュールに間に合うように各必要書類を作成する。

## 生地在庫

**Check!** 生地の色ブレがあるかを必ず工場に確認する。案件に応じて量産用生地の切れ端や各部材を量産前に取り寄せ、お客様に確認する。

## 量産開始

**Check!** 案件に応じて、初動量産品を10点以上（1点は必須）抜き取り検品用に取り寄せる。事前に画像にて仕様の間違いないか確認しておく。

## 量産抜き取り

**Check!** 量産抜き取り品をもとに、検品開始日までに検品指示書・梱包指示書を作成する。すぐに工場にフィードバックするため、抜き取り品が到着したら当日中に確認する。

**Check!** 抜き取りの注意点が改善不可の場合、理由を含めお客様に相談し許容を設定する。

## 検品・梱包

**Check!** 中国での検品報告書を必ずもらい、上司に確認してもらう。

**Check!** 梱包方法に問題がないか確認するため必ず画像で梱包時の状態を確認する。

## 出荷

# スケジュール管理について

受注したアイテムに関して納期遅延を起こさず安心・安全に商品をお客様に納品できるよう下記を遵守した上でお客様から依頼を受ける。(※一部例外あり。その場合は社長、上司、QCスタッフ決裁必須)

1 上司、工場から確認が取れたスケジュールだけお伝えする。

2 校了後の納品まで2ヶ月の期間を取る。

直接貿易の場合は納品日の通常2週間前までにship outの手配をする。

(年末年始、中国大型連休期間、また国内検品の日数分は除く)。

また上記のスケジュールを守れない場合はお客様に納期遅延のリスク説明をする。

3 万が一に備えて余裕を持ったスケジュールをお伝えする。

<工場> お客様の実際の納期より1週間ほど余裕をもってお伝えする。

<お客様> 工場の対応可能納期より1週間ほど余裕をもってお伝えする。

4 お客様には納品日だけでなく、キャンペーン日(配布日・発売日)も聞くようにする。

5 天候状況、通関状況に関係なく納期遅延は全て自分のスケジュール管理ミスである。

そのためどんな状況が起ころうとも問題なく納品できるスケジュールを組むようにする。



# トラブル対応について

オリジナルグッズの生産において何か問題があってから解決するのではなく、予めトラブルが出ないように事前対策を徹底することが重要である。ただそれでもトラブルは起きてしまうことがある。その場合、アイグッズではトラブル対応を第一優先と考え下記の対応を徹底する。

1 トラブルが発生した場合は、早急に上司に報告する。

2 一般消費者が不良品と判断した製品に関しては不良品と認識した上で対応する。

3 不良品に関しては「三現主義」を以って対応する。

- ①現場(工場・検品所・お客様先)に足を運ぶ。
- ②現物(抜き取りサンプル・不良品)を手にする。
- ③現実を自分の目で確認する。

必ず現場に足を運び、必ず現物を手に取り、現実を自分の目で見て確認する。  
お客様からの不良連絡があった時も必ず現物(難しい場合は画像)を確認する。

4 お客様には必ず良品交換、追加生産、赤伝対応などの対応策を上司と相談した上で提示する。

## 三現主義

3つの“現”を大事にする考え方



## 私の品質管理ポリシー

1

2

3

## 私のトラブルストーリー

